

コメ政策と飼料用米と今後に関する意見交換会-第1回 座談会 2020-
2020年11月17日（火） 食糧会館5F会議室

座談会へ向けた課題提起

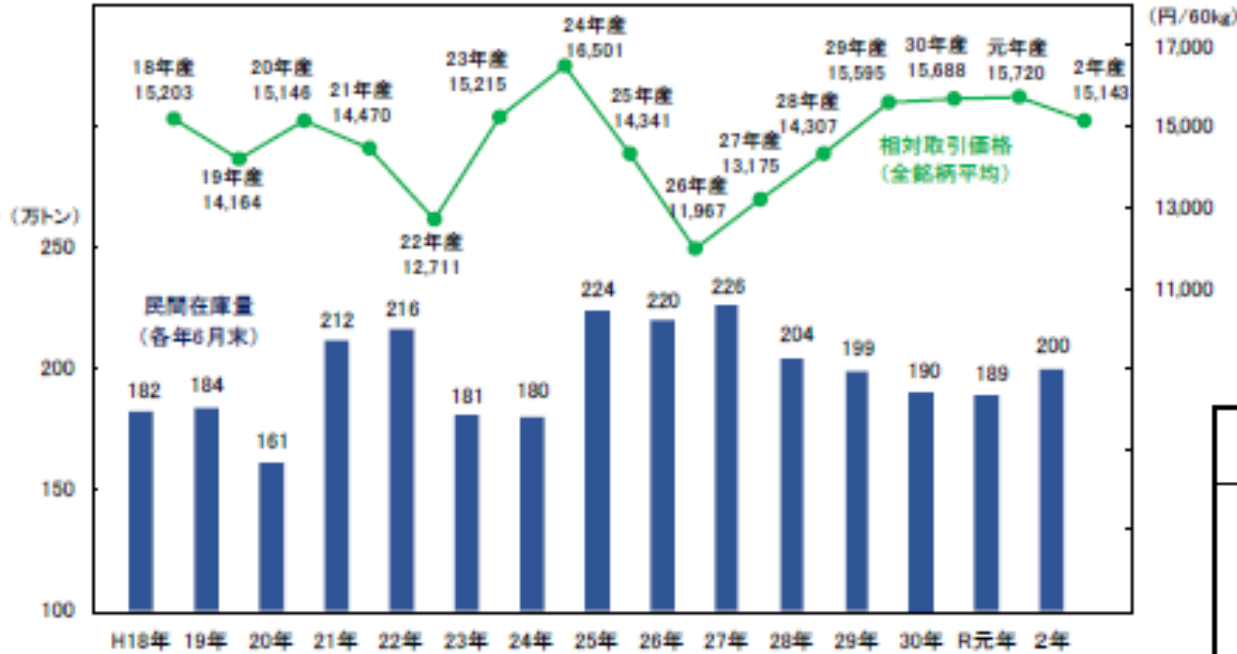
一般社団法人 日本飼料米振興協会 理事 信岡誠治

- ① 米の民間在庫過剰に伴う米価下落と生産意欲の減退懸念
- ② これに関連する飼料用米生産の動向、政策の整備・強化の必要性
- ③ コロナ禍における、かつコロナ後の世界の食料動向
- ④ 2020年3月に閣議決定された「食料・農業・農村基本計画」の評価と計画実行への注視

いかに飼料用米を定着させ増産を図っていくかが最大の課題

① 米の民間在庫過剰に伴う米価下落と生産意欲の減退懸念

(参考) 相対取引価格と民間在庫量



民間在庫の現状維持には、2021年産の生産量は2020年産の723万tよりも30万t少ない693万tにすることが必要（これはH24年～26年当時の作付削減規模に相当、面積で6万ha規模の転換が求められている）

3/4年の需給見通し

(単位: 万トン)

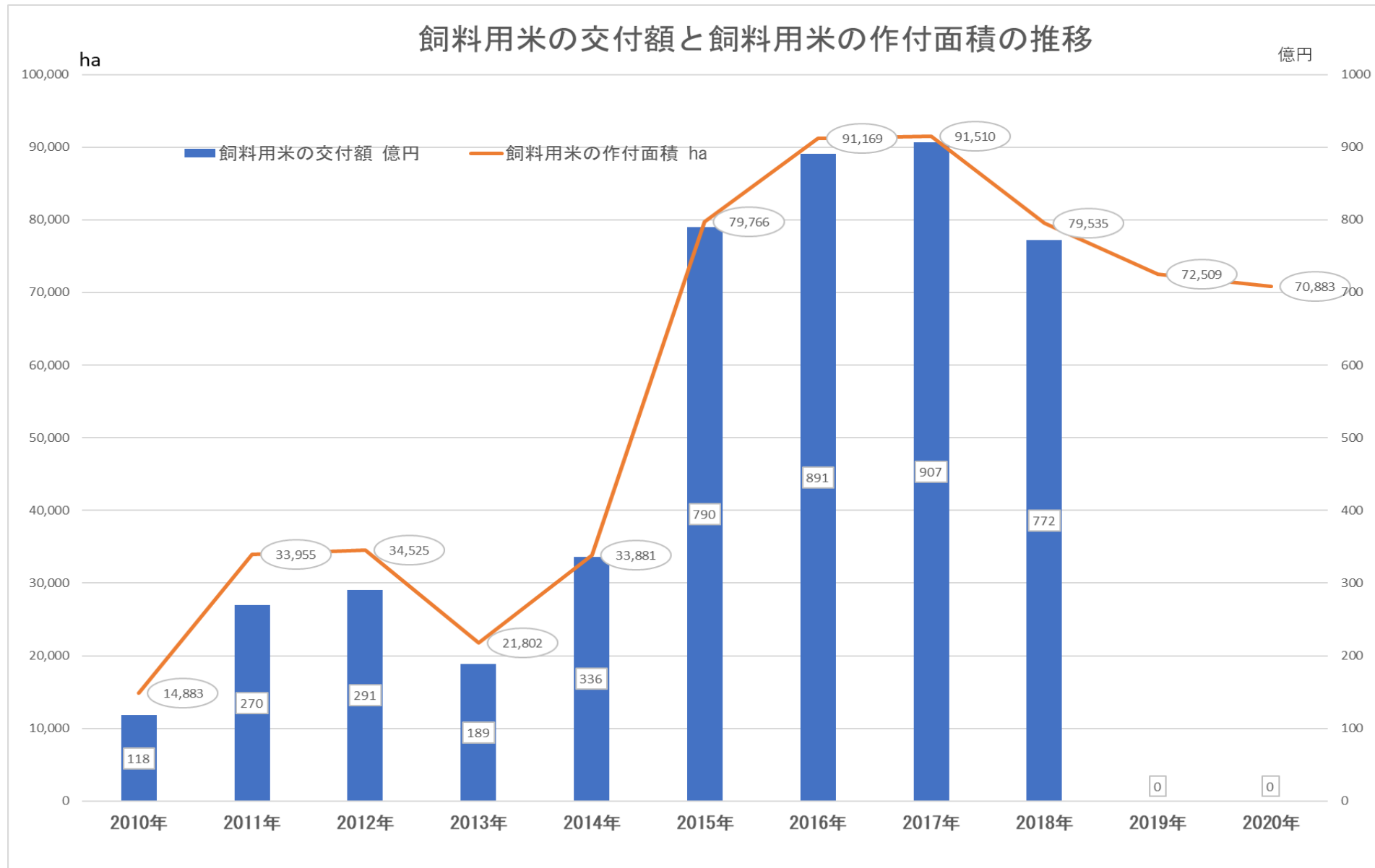
令和3年6月末民間在庫量	E	207 ~ 212	207 ~ 212
令和3年産主食用米等生産量	F	693	692
令和3/4年主食用米等供給量計	G=E+F	900 ~ 905	899 ~ 904
令和3/4年主食用米等需要量	H	705	705
令和4年6月末民間在庫量	I=G-H	195 ~ 200	194 ~ 199

過去最大の作付削減面積と同規模の面積を削減した場合の参考値

民間在庫の増大で米価は下落傾向へ、H26年産当時の60kg当たり12,000円を割り込む米価となると大半の経営は赤字経営で生産意欲は減退

出所：農林水産省「米に関するマンスリーレポート」(R2.11月号)

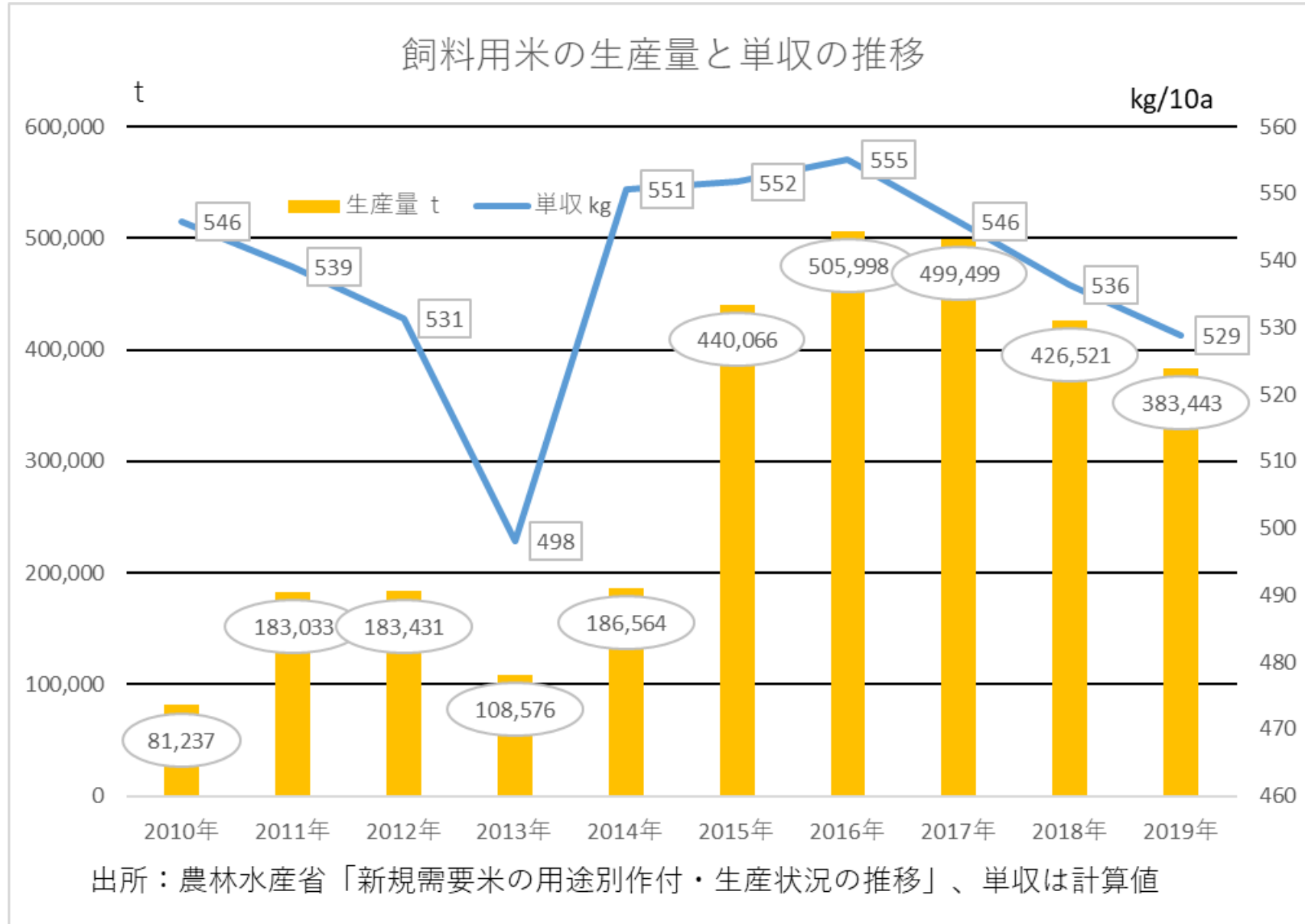
② 飼料用米生産の動向、政策の整備・強化の必要性



米価が堅調に推移してきたことから飼料用米の作付面積は近年減少傾向で推移

出所：財務省「農林水産関係予算のポイント」、農林水産省「米をめぐる関係資料」

② 飼料用米生産の動向、政策の整備・強化の必要性

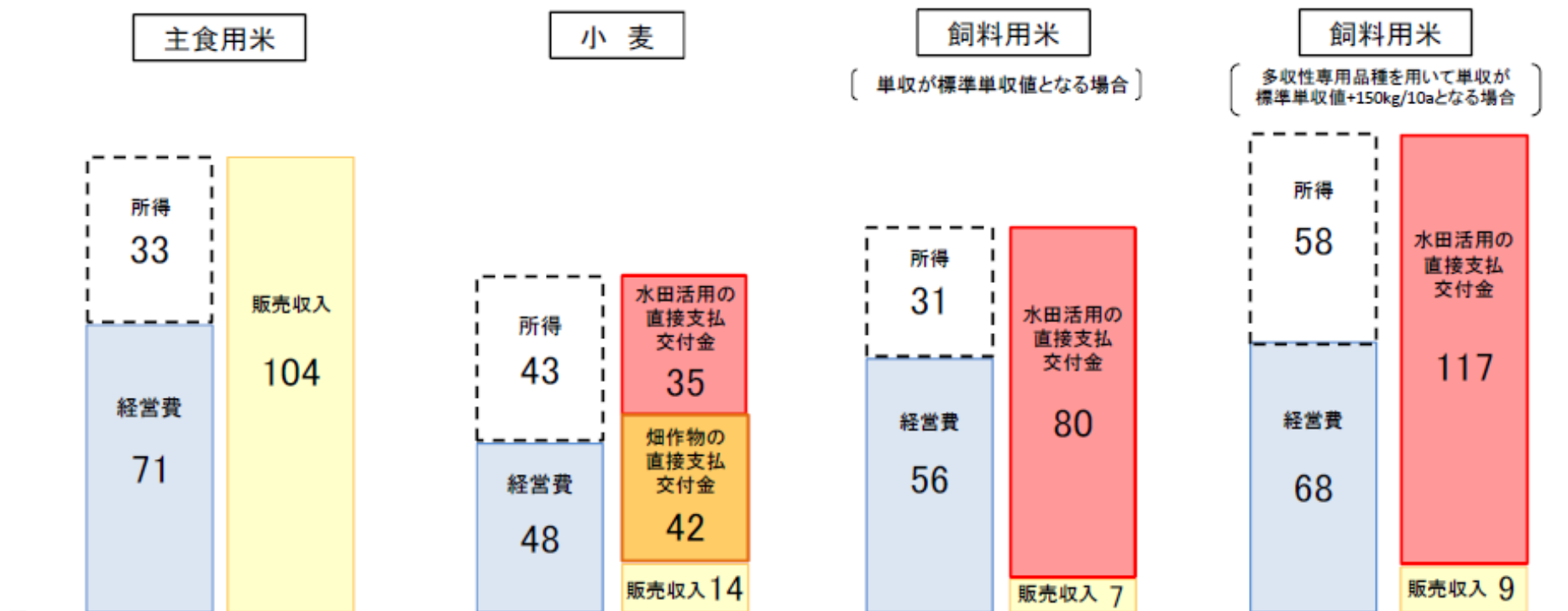


飼料用米の作付面積の減少に伴い生産量も減少傾向、単収も減少傾向、なぜか？

② 飼料用米生産の動向、政策の整備・強化の必要性

主食用米・転作作物の所得比較

○ 米の転作に対しては、主食用米を作付した場合との所得差が生じないようにすることを基本として、助成している。収入に占める交付金の割合が極めて高く、農業経営体の営農判断に大きく影響を与えている。



飼料用米の所得は多収すれば主食用米よりも高いはずなのに現場はそのように動かない、なぜか？

(単位: 千円/10a)

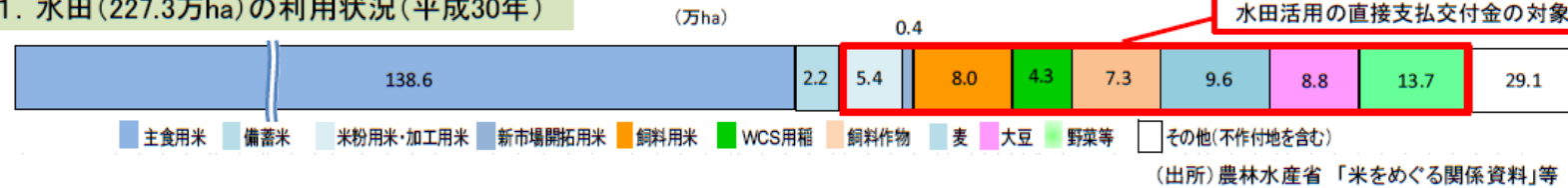
- (注1) 主食用米、小麦の販売収入は、平成27年産生産費統計の5ha以上層の平均の粗収益を用いている。
 (注2) 主食用米、小麦の経営費は、平成27年産生産費統計の5ha以上層の平均の支払利子・地代算入生産費から、家族労働費を控除している。
 (注3) 飼料用米の販売収入は、取組事例のデータを用いて算定。
 (注4) 飼料用米の単収が標準単収値と同じとなる場合の経営費は、主食用米の機械を活用するため、5ha以上層の平均のデータを用いて主食用米の経営費から農機具費及び自動車費の償却費を控除。
 (注5) 飼料用米について、多収性専用品種に取り組み、単収が標準単収値+150kg/10aになった場合、多収性専用品種での取組による1.2万円/10aの産地交付金の追加配分が加算され、戦略作物助成の収量に応じた上限単価10.5万円/10aが適用されるとして算定。また、経営費は、標準単収値の経営費から、150kgあたりの施肥及び収穫・調製等に係る費用を加えて算定。

② 飼料用米生産の動向、政策の整備・強化の必要性

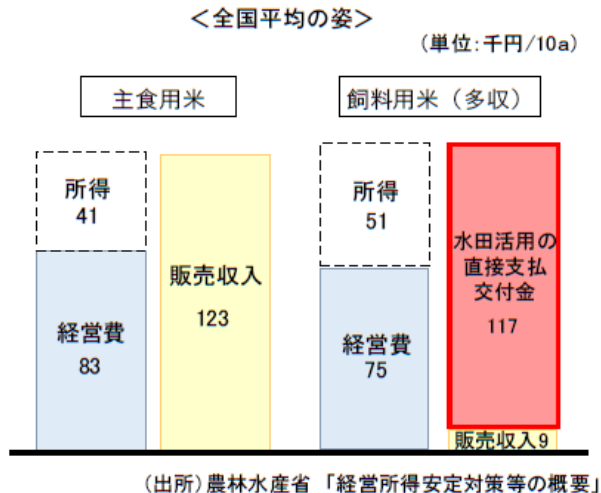
水田利用の現状と飼料用米に対する支援

- 水田の利用状況を見ると、主食用米が過剰に市場に出回らないよう「水田活用の直接支払交付金」により、飼料用米等への作付け誘導がなされている。(米価維持効果)
- 平成30年度の実績値を見ると、国が一律に交付する部分に加え、地域が独自に配分する部分を含めると、交付総額の約4分の1が飼料用米の作付けのために交付されている。

1. 水田(227.3万ha)の利用状況(平成30年)



2. 主食用米と飼料用米の所得比較イメージ



3. 水田活用の直接支払交付金における、飼料用米への支援状況(平成30年度)

	戦略作物助成	産地交付金	合計
	国が全国共通で対象作物・単価を決定している部分	地域が交付対象作物・単価を決定している部分	
飼料用米への交付実績(総額に占める割合)	643億円(32%)	129億円(13%)	772億円(26%)
飼料用米の単価等	収量に応じ、5.5万円~10.5万円/10a	・交付単価の上乗せ ・多収品種の取組に対する追加配分等	
交付金総額(実績値)	2,015億円	971億円	2,986億円

財務省の飼料用米への評価は米価維持効果のみ? 水田活用の直接支払交付金の4分の1が飼料用米へと偏重となっていると問題視?

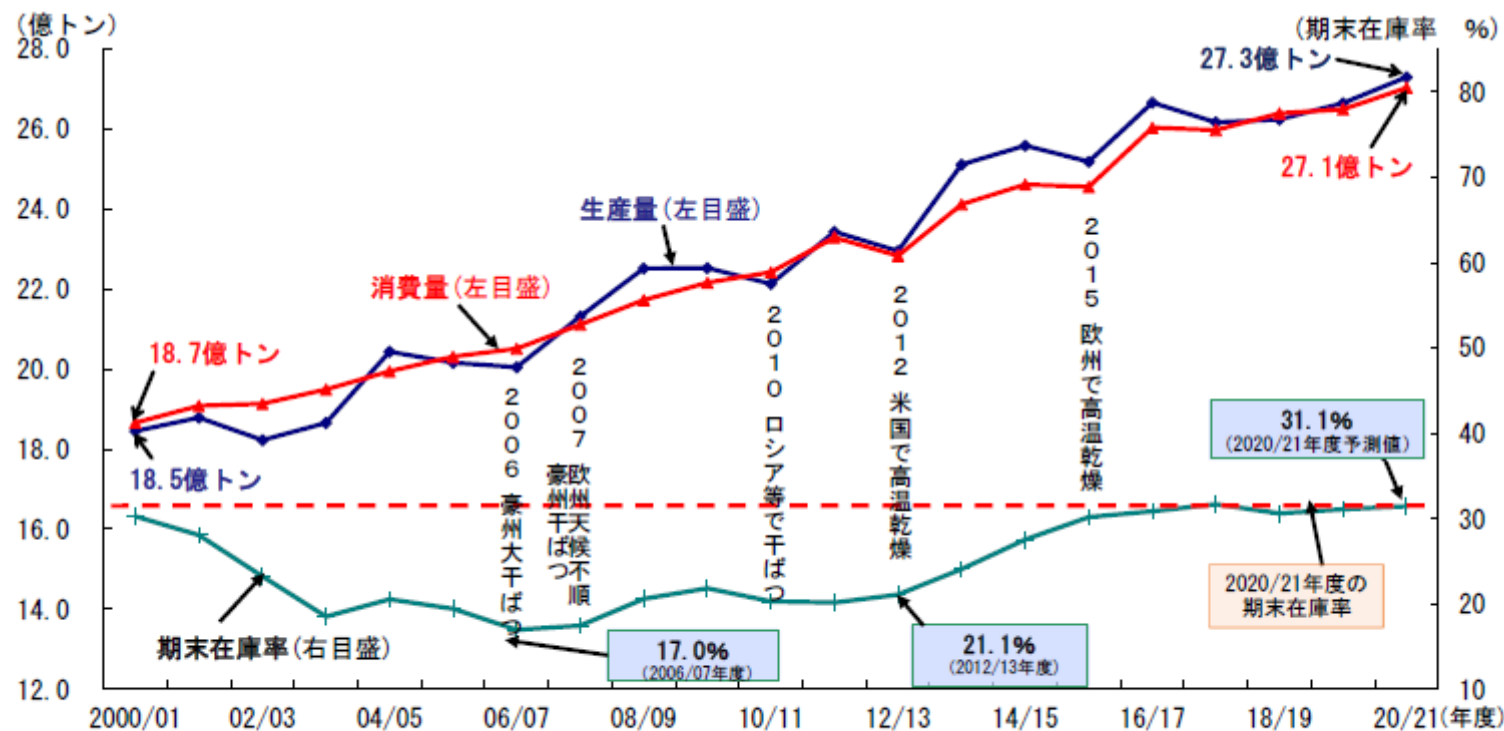
出所: 財務省「農林水産関係予算のポイント」

③ コロナ禍における、かつコロナ後の世界の食料動向

穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2020/21年度は、2000/01年度に比べ1.4倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2020/21年度の期末在庫率は、生産量が消費量を上回ることから31.1%となり、直近の価格高騰年の2012/13年度(21.1%)を上回る見込み。
- 9月時点の米国農務省の需給見通しによれば、2020/21年度の世界の穀物生産量は過去最高になる見込み。

□ 穀物（コメ、とうもろこし、小麦、大麦等）の需給の推移



資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (September 2020)、「PS&D」
 (注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

世界の穀物需給はコロナ禍でも豊作基調で穀物在庫率は31.1%と高くなっている。

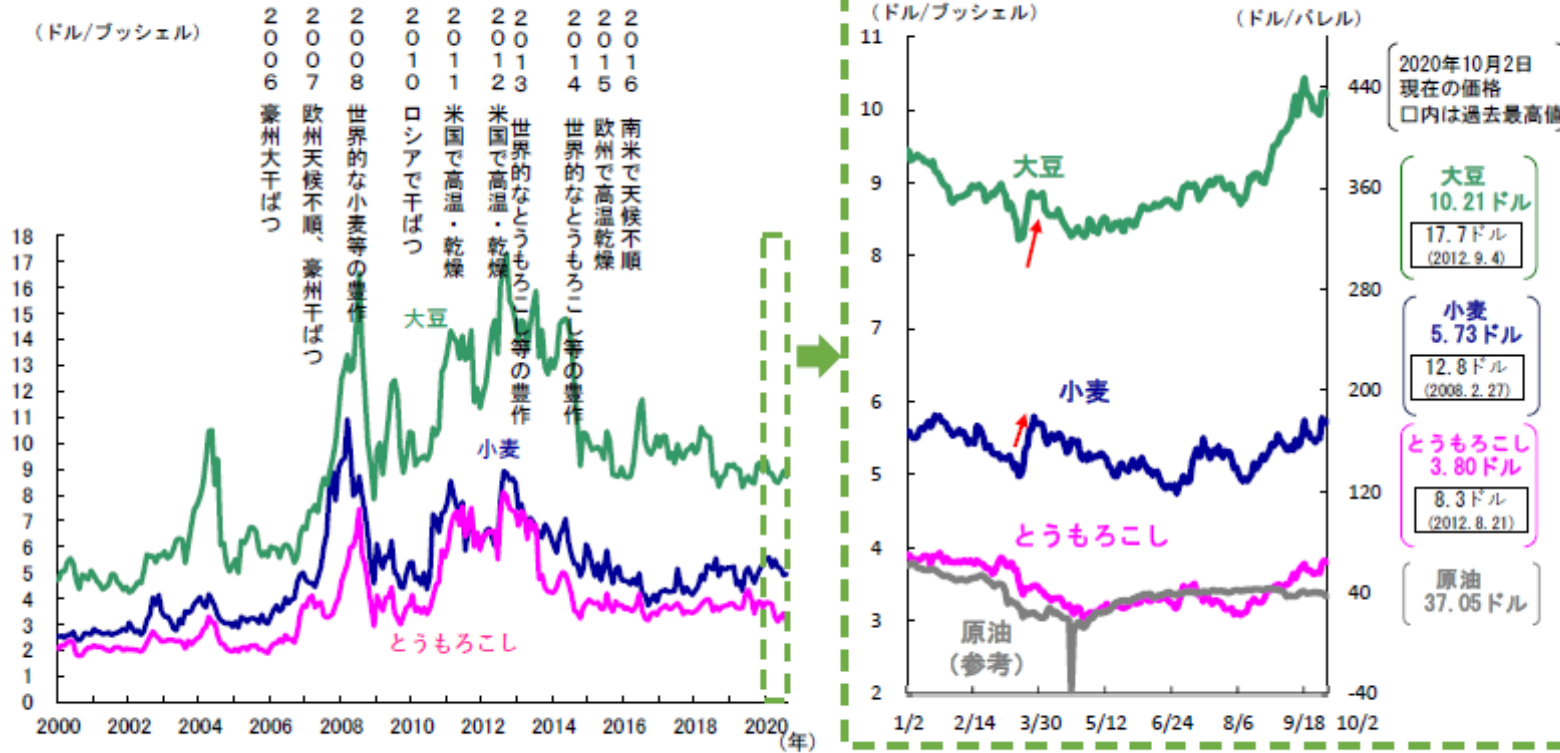
出所：農林水産省「我が国における穀物等の輸入の現状」2020年10月

③ コロナ禍における、かつコロナ後の世界の食料動向

穀物等の国際価格の動向(ドル/ブッシェル)

- とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な小麦やとうもろこし、大豆の豊作等から穀物等価格は低下。2017年以降ほぼ横ばいで推移。
- 大豆や小麦は3月下旬に、コロナウイルスによる家庭需要増加の見込みや、中国による米国産穀物購入の期待などから一時上昇したものの、現在は落ち着きを見せている。
- とうもろこしは、飼料だけでなく、ガソリンに添加されるバイオエタノールの原料にも用いられており、原油価格の動向と連動する傾向。

□ 穀物等の国際価格の動向



注1：シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格である。

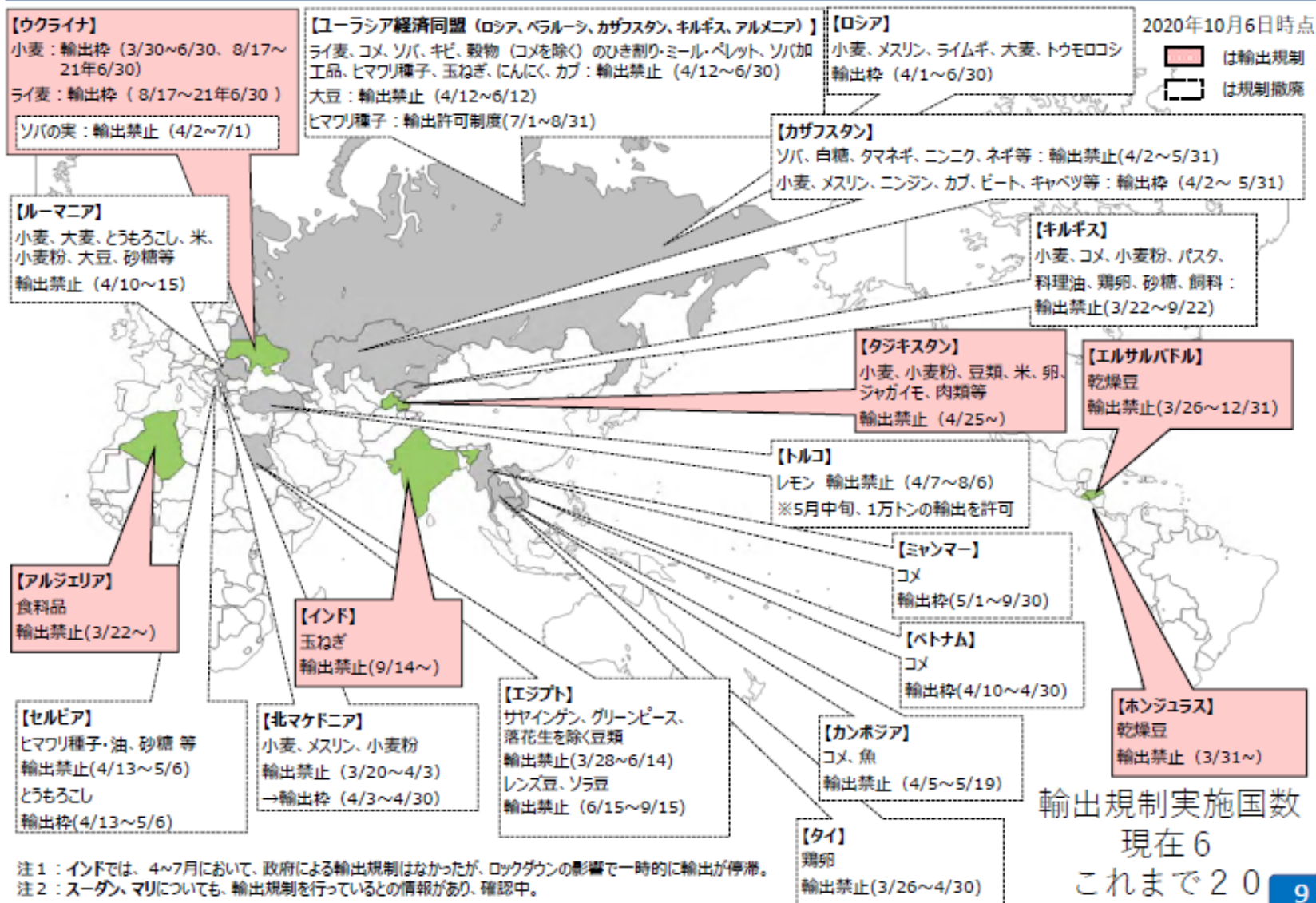
注2：過去最高価格については、シカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

注：穀物価格は、シカゴ商品取引所の1月2日からの毎日の期近終値の価格
原油は、NYMEX・WTI原油価格である。

穀物の国際価格は2017年以降横ばいで推移、コロナ禍で一時的に高騰したのもあったが現在は落ち着いた動きである。

③ コロナ禍における、かつコロナ後の世界の食料動向

農産物・食品の輸出規制に関する最近の主な動き



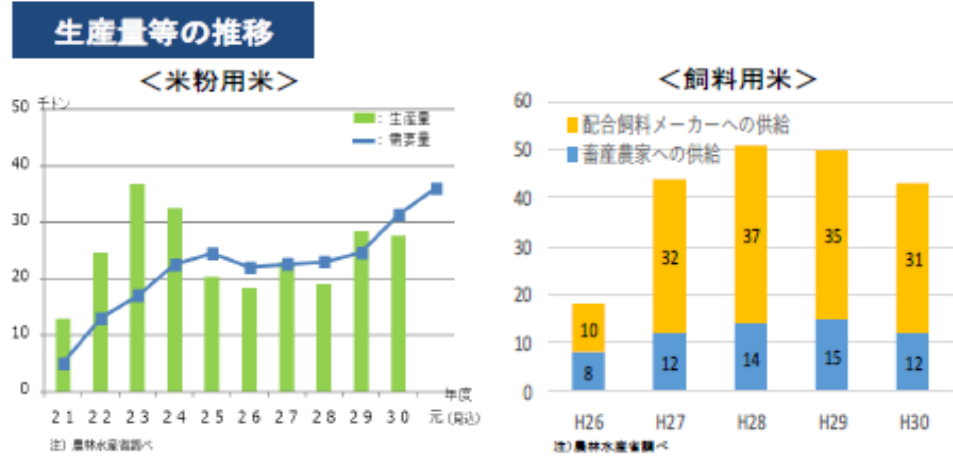
コロナ禍で農産物や食品の輸出規制が2020年春には20ヶ国で発動され問題となったが、現在は輸出規制は解除されつつあり、残りは6ヶ国

④ 2020年3月に閣議決定された「食料・農業・農村基本計画」の評価と計画実行への注視

米穀の新用途への利用の促進に関する基本方針について

- 本基本方針は、米穀の新用途(米粉用、飼料用)への利用を促進するための基本的な方向を提示するもの。
- これまでに明らかになってきた課題やその対応に向けた取組の方向について、関係者等の意見を基に追記して改定。

<現状と課題>



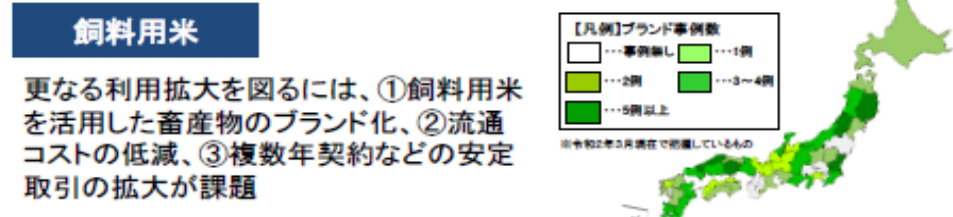
米粉用米

更なる利用拡大を図るには、①消費者ニーズを踏まえた商品開発、②米粉の特徴を活かした輸出の拡大、③二次加工コストの低減が課題

<製粉・加工コストの状況> (kgあたり)

	原料価格	製粉コスト等	米粉価格	二次加工品価格
米粉	50円程度	50～240円程度	100～290円程度	1,300円～2,000円程度
小麦粉	50円程度	50円程度	100円程度	430円

注1) 米粉原料価格は企業購入価格(平均値)であり、農家出荷価格とは異なる場合がある。
 注2) 米粉価格は業務用(加工用)の価格。
 注3) 二次加工品価格は、食パン1kgの価格(米粉は農林水産省調べ、小麦粉は小売物価格計算)



<施策の方向>

消費者ニーズを踏まえた商品開発

- 米ゲルやアルファ化米粉等の新たな米粉の加工法を活用した商品の開発
- 飼料用米を利用した畜産物のブランド力の強化

米粉用米の海外需要の創出

- 国内産米粉や米粉加工品の優位性を活かした海外需要の創出及びノングルテン米粉JASの制定

流通・加工コスト低減

- 米粉用米について、パンや麺等の大規模製造ラインに適した二次加工技術の開発
- 飼料用米について、バラ出荷やストックポイントの整備等

安定取引の推進

- 需要を確実なものとするため、複数年契約などの安定取引の一層の推進

生産努力目標

- 食料・農業・農村基本計画においては、生産努力目標として、令和12年度において、米粉用米にあつては13万トン、飼料用米にあつては70万トンを設定

米粉用米・飼料用米の利用促進